

妻子の遺影を手に署名
を呼び掛けるストッキ
さん

「可能性がある」として、出所することがない「終身刑」の法整備を求めることを決意。昨年七月から請願の署名集めのため、オートバイで全国を巡っている。

本県入りは四十五道府県目。前橋や藤岡市内で全国行脚の趣旨を説明し、賛同者から署名を集めた。上毛新聞社を訪れたストッキさんは「妻と子供の死を無駄にしたくない。死刑と無期懲役との間に終身刑がないのはおかしい」と訴えた。



「終身刑、法整備を」 本県で署名活動

妻子失ったストッキさん
二〇〇四年五月、再犯者に自宅を放火され、妻と娘を失い、終身刑の法整備を求めて全国行脚している宮崎市、自営業、ストッキ・アルベルトさん

火され、妻の公子さん(当時46)と二女の友理恵さん(当時12)を亡くした。
男は過去数回、窃盗などで服役し、出所後は放火を繰り返していた。宮崎地裁は昨年六月、男に無期懲役の判決を言い渡し、刑が確定している。

ストッキさんは「無期懲役でも、十五年から二十年で仮出所できる。再度、同じ犯罪を起す可能性が

署名に関する問い合わせは、ストッキさん(Eメール、minervai@rhythm.ocn.n

度、同じ犯罪を起す可能性が